学生発表会

# 青年期における対人不安とマスク着用の関連について（研究計画）

特別支援教育・臨床心理学コース　臨床心理学専修
藤本　健資

## 1. 発表概要

本発表では、青年期における対人不安とマスク着用の関連について、現代社会におけるコミュニケーションスタイルの変化から生じる対人不安、年々増加するマスクの売上額の点からマスク着用者が増加していることを発表した。そして、その際にマスクの着用用途についても様々な用途があることを示し、大きくポジティブな使用用途とネガティブな使用用途に分けられることを述べた。この点について、広辞苑第六版 ( 新村 , 2008 ) から、だて（伊達）という言葉の意味を「見えを張ること、外見を着飾ること」であるとしていることより、菊本 ( 2011 ) の定義している『だてマスク』という言葉は「素の自分より素敵な自分を演出する道具としてのマスク着用」というポジティブな意味合いしかもたないことになることを指摘し、『だてマスク』という用語がこの現象に対して不十分なものであることを指摘した。本発表においては、まだ未決定ではあるが、表情を隠すことをはじめとする非演出的な用途としてマスクを着用する人々を含めた、非本来用途でのマスク着用に対して、仮の名称として『えせマスク』と名付けた。さらに、松田・樺山 (1999) の研究を踏まえ、公的自意識が高いと評価不安が強いため、マスクを頻繁に着用するようになり、そして、直接的なコミュニケーションの際にもマスクを着用して表情を隠し、その場をやり過ごすという経験を積み重ねることで対人不安が強くなるというモデルを提示した。最後に、化粧行為とマスク着用について、無い部分を創り出すという目的での化粧ではなく隠したい部分を隠すという目的での化粧とえせマスクの関連について検討予定であることを述べた。

## 2. 当日の成果

マスク着用に関わる他の要因や外国におけるマスクの使用用途、衛生の明確な定義などについてご指摘を頂いたほか、青年期に焦点をあてた理由をもう少し詳しくした方が良いこと、外国と日本のコミュニケーションの違いが日本で特にマスクが用いられることについて役立つのではといったような多くの御意見を頂けた。今後の課題や参考として修士論文に活かしていきたい。

発表したポスター